大阪府立農芸高等学校　令和５年度　第二回　学校運営協議会

日時：令和５年１２月８日（金）１５：００～１６：３０
場所：本校校長室

参加者：農業大学校校長　根来様（A）　さつき野学園長　中曾様（B）
PTA会長　志摩様（C）　同窓会会長　田中様（D）
美原区長　山田様（E）　帝塚山学院大学大学院教授　大堀様（F）
校長　亀井事務長　烏谷首席　糸満教務部長　林田生徒指導部長　山下進路部長
樽井情報主担　稲葉保健部長　片岡P科科長　北田Z科科長

１　学校長挨拶

２　略

３　協議（司会：根来様）

（１）令和５年度学校経営計画について　進捗状況の報告
校長「中期的目標について、確かな学力の育成と進路保障については、授業アンケートの結果で説明させていただく。その他に関しては、それぞれ担当の分掌長が説明させていただく。その他の点において説明させていただく。働き方改革の一貫として、電話の時間外対応をやめた。自動音声案内システムを導入。教員の時間外労働が減少傾向にあるが、行事等で熱心に取り組む教員も複数いるため、そのあたりではまだ時間外労働が多い。授業アンケートの結果については別紙資料を用意した。７月に第一回を実施。質問事項９つは例年と同様にし、経年変化をあげている。その中で、（生徒の必要な予習や復習ができている）という項目が、例年3.0に満たなかったが、今年度は3.0を超えてきている。ICT（一人一台端末）の活用によるものだといえる。学年別結果については、３年生の意識が少し低いが、全体として3.3を超えており、評価できると考えている。１学年の経年変化をみると、今年度入学した生徒の意識はとても高いといえる。明確な目的意識をもって活動していると感じる。12月に別のアンケートを実施予定。教科別の結果もつけている。教科については生徒の得意不得意等があるため参考程度に御覧ください。」
E「必要な予習や復習ができているという項目が上がっている理由としてICTの活用をあげていたが、具体的にはどのような取り組みをされているのか」
校長「すべての科目ではないが、調べ学習やまとめ作業をさせているということを聞いている。」

B「４～７の項目の上がり率が高くなっているが、先生方の取り組みの努力が大きいとおもう。大変嬉しく思う。」
校長「電子黒板を導入したことにより、わかりやすい授業になったのではないか。視覚を活用した授業展開を行っている。」
樽井「個々の先生方によって取り組みは異なるので詳細は分からないが早くから積極的に取り組んでくださる先生方が多い。」
烏谷「ただスライドを見せるだけでなく、共同編集を行うことで生徒たちが活動しやすくなった。また、板書のように一度書いて消してしまうだけでなく、そのデータを編集して生徒と共有できることができる。後にも残せることがよい。カフートを活用し、生徒の興味関心をひく努力をされている先生もいらっしゃる。」
B「カフートについては、小中でもよく活用している。」
E「先生方の努力のおかげだと思う。」
A「続いて分掌からの報告をお願いします。」
林田「生活指導部より。現状は資料の通りである。本校生徒は落ちついている生徒が多いが、近年は、目的意識の低下や不本意入学の生徒が増加しており、指導に困難をきたすケースも増加傾向である。また、規範意識も低下傾向にある。遅刻欠席や、身だしなみについてルーズな生が多く、指導件数も多い。交通ルールやマナーを守れない生徒も多く、学校へ連絡が入る場合もあり、現場で指導も行っている。SNSの普及により、SNSの不正使用や人権侵害を行うケースがでてきている。また、発達障害のある生徒も増加傾向にあり、配慮を検討していく必要性がでてきている。最近の懲戒内容としては、いじめや人権侵害に関するものが多い。遅刻指導としては、現状昨年度と比較すると増加傾向にある。同じ生徒が遅刻を繰り返す傾向にある。遅刻が増加すると、欠席が増加し、成績不振になる生徒がいるため、減らしていくべき課題である。遅刻指導の方法や指導方法を変更した。」
D「懲戒の件数について、SNSやいじめに関する案件については複数なのか、個人なのかそのあたりはどうなのか。またその後の支援についてはどのようにしているのか。」
林田「内容にもよるが、いじめについてはいじめ対策委員会を実施したり、SCを活用したりしている。」
D「教員が対策をとることも大切だが、生徒同士で解決できる生徒を育てていくべきではないだろうか。」
校長「いじめをおこさない学級づくりが必要である。生活指導にかかる生徒ばかりではないが、社会性が身についていない生徒が増加傾向にある。幼い生徒が増えている。」
山下「進路指導部より。資料一部。進路行事については概ね予定通り実施している。就職試験については、２７名中２５名が一次で内定をいただいた。残り２名についても二次で内定をいただいた。公務員については合格者のみ記載している。ハイテク農芸科から３名、大阪府技術職（土木）堺市技術職（土木）、自衛隊に合格。資源動物科から２名自衛隊に合格。農芸員については、不合格であった。（３名）進学については、総合型選抜、公募制推薦と指定校推薦があるが、現在決定しているものを

載せている。現段階では６名が国公立大学に合格している。この他、鹿児島大学も受験中である。その他、今年度の取り組みについて紹介。」
A「参考までに、岐阜県の農業大学校にいったのはなぜなのか。」
山下「３名とも造園専攻で、その内容を深めるため岐阜県を選んだ。」
樽井「リーディングギガハイスールの取り組みで研究授業を２日間実施した。電子黒板が現在ついているが、大阪府立高校すべてに設置するため、本校にもさらに１０台電子黒板がつく予定である。情報としては、保護者向けサイトを作成し、保護者の方にアカウントを配布した。遅刻や問い合わせのフォームを作成し活用している。懇談中に相談ブースを設け、だいぶ活用率が上がった。１年生は入学時に案内したため、１年生保護者は残り２組の参加を促す形となっている。保護者向けサイトやメールで、配布資料を送り、ペーパーレス化を図っていきたい。電話対応が限定されるため、はやめの対応をお願いしたい。」
D「保護者としてもこのような形で実施してくれるとありがたい。保護者にまで届かない資料もあるため、よい取り組みだと思う。」
山下「・・・」
稲葉「保健部より。性的マイノリティについての研修を実施することと、環境整備、個別の支援を行うことが府立学校に対する指示事項に記載されている。そのため本校ではSCを講師にまねき、講演会を行った。研修のまとめとして、何気ない教員の一言で傷つくこともあるため、多様性を理解した上で指導することが大切である。」
烏谷「農場部より。プロジェクト発表についての説明。全国大会で活躍している。近畿大会出場したところでは優秀賞をとっている。学校PRをしているが、報道関係でもよく取り上げてもらっている。表彰も多くいただいている。（別紙参照）地域連携も活発になっており、百貨店から依頼を受けることが増えてきた。生徒の満足度もあがっている。各学科での活動も活発となっている。農芸祭の来場者は今年度１８００名ほどとなった。防疫の関連で不特定多数の人数を招待することが困難になってきており、農芸祭の目的や意義を考え直す時期にきている。その他、国家試験に合格している生徒もいる。」
E「インスタをフォローしているが、生徒のいきいきとした顔がみれて楽しみにしている。」
校長「地域連携を行うことで現場の大変さを実感することができるのでよい取り組みとなっている。」
A「農業技術検定を持っている子たちが本校に入学してきて、普通科出身の生徒に教えてくれている。そのおかげで生徒全体の技術力が向上してきている。ありがたい。」
井上「生徒が卒業後、出ていく社会はICTが活用できて当たり前の社会にいる。生徒たちが困らないためにも、教員がまずは学び、適切な指導を行わなければならない。何を使うかではなく、情報共有をすることが大切なので、今後一層教員同士の情報共有能力を高めていきたい。また、いじめや性的違和等問題を抱えている生徒が増加傾向にある。来年度に向けて教育相談の体制を整えていきたいと考えている。

片岡「P科より。教員の人事異動により、教員の専攻異動があったため、新たに取り組んだプロジェクトは多くないが、様々なコンテストに参加し、表彰してもらっている。次年度はさらに活発に取り組みたい。生徒が長時間残っていることが課題となっているため、適切な指導を行っていきたい。また、食品加工科の広報に力を入れていきたい。」
北田「防疫の観点や飼料の高騰化が原因で大変なこともあるが、働き方改革をすすめている。また動物の分娩の状況を配信することで生徒の学びに繋げている。深夜である場合もあるので、その点については今後運用面が課題である。飼料については廃棄されたパンやオリーブかすをいただき、対応しているが、なかなか保存期間が短いので難しい。ふれあい動物専攻では、公用車を運転できる教員が１名しかいないため、外部に連れて行くことが困難になってきている。校内にきていただく形を取っていっている。」
D「様々な問題があるが、飼料の高騰化についても、プロジェクト発表にいかせると思うので、生徒と一緒に考えていってほしい。農業経営の点においてもより深い学びになると思う。」
事務長「事務より。飼料の高騰のため、多めに予算をもらっているが、それでも間に合わない状況。現在でも３００万ほど予算が足りない状況となっている。ぜひ支援をお願いしたい。」

A「全体を通して意見やご質問があれば」
B「ICTの活用によって、生徒の授業に対する思いがかわってきているのではないか。本校の小学校４年生では、パワーポイント等も使って発表を行っている。高校に入ってもあって当然という気持ちで来るのではないか。現在の生徒はICTの活用が当然と思っているのではないか。研究授業を拝見してもとてもうまく活用されていた。我々教員が勉強していかなければならない。学級閉鎖等、生徒がいない状況で情報を提供したり、資料を提供する際、ICTが活用できてよかった。SNSをもっとうまく活用することで、興味をもつ生徒が増えるのではないか。特色ある農芸をもっと発信してはいかが。」
C「農芸祭の招待を、友人も含めていただけないか、検討してほしい。」
D「農芸祭の卒業生を招待したが、コロナ禍で卒業した生徒がたくさんいた。農業関係で勤めていらっしゃる方は、防疫に関してシビアであった。働き方改革で行われている取り組みはとても良いと感じている。家畜を減らすと増やすことは難しいので、現状を維持できるようにしてほしい。」
F「思春期の方を対応していても、規範意識の低下や目的意識の低下を実感する。入学後にその大切さを教えてくれている学校は本当によいと感じる。遅刻や忘れ物など、その原因がどこかにあるため、特性を考え、自己理解し、対応を考えていくことが必要である。医療現場もパンク状態である。それだけ問題を抱える方が多いと実感している。鑑別所横の相談所もよければ活用でしてください。」
A「農芸高校の生徒に寄り添っており、素晴らしいプロジェクトを行っていると感じた。今後も、発表をする機会を多く設けていってほしい。高校でここまでのことができていることは本当に素晴らしいので、ぜひ継続してほしい。」

次回、第３回　令和６年２月９日（金）午後　総括